

# 論 說

## 農村道路の改良

法學博士 瀧 本 誠 一



道路の善惡を見て其の國の文明の程度をトすべしとは古へより西洋諸國に行はるゝ諺であるが、我が國徳川時代に於ける經濟學者庄司考祺氏も亦其の著經濟問答祕録に於て道路の清否を見て國の盛衰を知るべしと云つて居る。道路の改良が國家社會の爲めに如何に重大の問題であるかは、今更ら余の辯を待たない所であらう。

近世鐵道の普及以來普通道路は一般に閑却せられて、何處でも鐵道々々と云つて、鐵道が經濟的發

達に重大の關係を有することは誰れでも知らないものはないやうになつたのは、至極結構の事ではあるが、それと同時に普通道路が鐵道の普及に隨つて益々重大の機關となり、鐵道が如何に發達しても普通道路の改良がそれに伴はなかつたならば、鐵道の價値は其の大半を失ふのであると云ふことに氣付かず、單に鐵道のみで、その利用を完ふするものゝ如く思惟する者多きは、誤解の甚だしきである。勿論我が國の主要鐵道は概ね幹線道路に沿ふて敷設せられ、従つて從來の國道などは實際多くは鐵道の爲めに利用の程度を減じ中には殆んど無用に歸せんとする所すら之れなきにあらざるは事實なるも、それは國家に於て此の二者の關係を無視し、道路は鐵道の延長であり、鐵道は道路の延長なることを知らずして、二者の行政管理上統一を缺くの結果であると云はねばならない。鐵道が普及すれば普通道路が其の重要さを減ずると云ふ證據とはならないのである。

獨逸の聯邦就中、ババリアなどに於ては、曾て鐵道の發達と同時に普通道路の大改革に着手し、國家の保護の下に修理築造すべき大道路、即ち國道は鐵道に對し正角度に放出する幹線を擇び、鐵道に沿ふて並行する國道は總て之が保護を廢止して仕舞つたのである。余は我が國の道路政策に就ては大體範を獨逸の例に取り、鐵道の各驛へ線路と正角度に通ずる大小の普通道路を國家の保護若くは管理の下に相成るべく完全に改築修補して、鐵道の各驛と農村との聯絡を通し、農産物其の他の貨物を敏速精確に輸送し得らるゝ様にするの必要を痛切に感ずるのである。現在の鐵道は事實に於て國道に代つたのである。普通の道路と鐵道とは其の效用に於て多少の差異なきにあらざるも、國道と併行して鐵道を敷設したのは、其の結果に於て宛も二條の同じ道路を開通して、互に競争せしめたやうの

ものであつて、兩者共に其の利用の程度を減殺すべきは當然であるから、之をして各々其の働きを完ふせしめ、相互に一方が他の一方の延長に過ぎないことを了解したらんには、鐵道の敷設の普及するに随つて國道の變更をなし、鐵道に併行するものは漸次これを廢止して相成るべく、其の主要驛若くは終點驛を中心として事實上に鐵道の延長に過ぎないやうな大道路を新に國道に編制するなり、なんなりと相當の方法を立て、兩者の效用を充分に發揮せしむるの方針を取らなければならぬのである。東海道を始め在來の大道路は長距離の輸送機關としては、今や殆んど其の價値を失つて居るのである。故に鐵道と併行する長距離の道路を國道として存続せしむることは洵に無意義のことであつて、そんな無用の事をするよりも、寧ろ短距離であつても、鐵道の主要譯若くは終點驛より他の鐵道若くは港灣等へ通ずる重要な道路を特に國家の保護若くは其の直接の施設に依つて大に改良するの方針を立つることが何よりの急務であらうと思はるのである。國道々々と云つて歴史的の古き名稱に拘泥し、實際短距離の輸送を充たすに過ぎなくして、而かも鐵道と全然併行する道路を特に國道として國家の施設にしなければならぬことは、萬々之れなかるべければ、鐵道が今日の如く發達した時代となつては、當局者は此の點に向つて大に考慮を要することであらう。

近年農村問題が非常にやかましくなり、農村の疲弊を救濟し、農民の生活狀態を向上せしむるの急務を論ずる者少なしと爲さず、國家社會の爲め誠に喜ぶべきの兆候なりと雖も、彼等が其の救濟策として提唱する所を見れば、多くは皆農村の社會化なることを説き、小作契約を云々し、自作農の必要を主張し、若くは又低利資金の貸付などを賛成する者あれども、其の實これ等の事は皆な枝葉の問題で

あつて、農村の不振農民の慘狀はその淵源する所は世人の信ずるが如き、小作契約の不安とか、自作農が少ないとか、資金が缺乏して居るとか云ふやうなことではなく、全く舊式の農業そのものが、今日の如く進歩發達した時代に適しなくなり、他の商工業と對立して共に二十世紀の恩澤に浴することが出来なくなつた結果に外ならないのである。即ち換言すれば農業そのものは獨り二十世紀の進歩に後れて、今日尙依然として、自給自足時代の舊態を脱すること能はず、農民は賣るべき商品を作るものにあらずして食ふべき食料を作るものなりとの古き觀念に支配せられ、農家一般に自己の生産物を如何に善價に販賣すべきかと云ふことを痛切に考慮せずして、行きなりばつたりの舊式農業に一任し、世界の農業が今や如何に進歩しつゝあるかを覺悟しない結果であると云はねばならない、之を要するに農業は其の生産法に於ても販賣法に於ても商工業のその如き近世的の科學的經營法を缺き、只だ自家の生活の資料を生産することが主要の目的であつて、一つの企業としてやつて居るものは殆んど絶無であると斷言し得らるゝ位である。故に我が國の農家は其の生産物の販賣法に就いては頗る呑氣であつて、有利の市場を求めて、善價に賣捌くと云ふ工夫を凝らすこともなく、自家の生活に必要な以外のものは農村を徘徊する少數なる商人の仲介者の云ふがまゝに安く手離して仕舞はねばならないやうな境遇に居るのである。この境遇を根本的に變更して、農業その事が商業や工業と同じやうな企業である、商賣である、營利事業であると云ふことを覺悟して、新式の經營法を取らねばならないのであるが、之を實現する第一着手は農村道路の改良である。農村の道路を完全に改良して、山村へ行くにも一噸積の貨物自動車位い通じ得らるゝの便を開きたらんに、農産物の聚集輸送に於

て多大の便利を與へ、一切の農産物、就中市場との聯絡が簡捷になれば、比較的高價に賣れるべき蔬菜、果物、鶏卵、牛乳等の如き腐敗し易きもの、販賣上に此の上もなき便利を與ふること勿論なれば、農家は商品としては最も不利益なる米穀の生産のみに従事することを止め、世界の農業の模範國たる丁抹の様に養鶏、養豚、飼牛などを農家の本業として大に利殖を圖ることも出來得べく、又それ程でなくとも、所謂農家の副業として、是等の飼養に従事するも、優に多大の利益を上げられ得べきことは明かである。従來我が當局者が農家救済の一手段として、副業の必要を認められ、夫れ、其の地方に適當するものを頻りに奨励し居らるゝも、未だそれ程に效果の顯はれざるは、畢竟販賣法の宜しきを得ざる事が、其の一大原因となつて居るのである。例へば僻村の農家に於て副業として養鶏採卵に従事し、日々數十顆の玉子を産出して、道路の不便の爲め毎日買集めに來る者もなく、三日に一回か、一週に一回か巡廻し來つて無闇に安買せらるゝと云ふ様な状態であるから、如何に副業を奨励しても大に發達の望のないのは當然の事である。今若し是等の農村に向つて自動車道の普及を圖り、各地方に販賣組合を組織せしめ、毎日朝夕二回づゝも自動車で農家を訪問して玉子の買集めに従事せしめ、それを直ちに鐵道なり何なりの便に依つて直ちに市場へ販賣し得らるゝの方法を立てたらんには、農家の副業は奨励を待たずして大に勃興すべきは明かであらう。故に余は今日の大問題たる農村の救済は小作契約の安定にあらず、自作農の創設にあらず、低利資金の貸付けにあらずして、農村道路の改良、就中貨物自動車道を遍く農村に普及せしむるのが、何によりの急務であると信ずる所以である。

余は農村を社會化するの說には必ずしも反對する者にあらざるも、今日我が國の農村はまだ、

資本主義すら行はれて居ない、殆んど原始的なる自給自足の農業時代を脱しないのである、故に現在に於て一足飛に社會化など、叫んでも實際社會化すべき事實の存在は認められないのであつて、余はそれよりも先づ我が農業を企業化し商業化し之を經營して居る農家をして商工業者と同じく、生産物の販賣法に特に多大の重きを置き、生産者(即ち農家を市場に接近せしむる手段を爲さねばならないのである、生産者を市場に接近せしむる第一の要件は農村に貨物自動車を通ずる道路を普及せしむるより他に取るべき方策はなからうと信するのである、然らば農村問題の解決も亦此の道路問題の解決に待たねばならないことは明かである。(未完)

## 交通に對する無理解と交通教育の必要

法學博士 末弘 嚴太郎

社會の地方的竝に職業的分業關係、從つて社會的相互倚依の關係が緊密複雑になればなる程、社會諸分子の相互交通を保障すべき交通機關は日に益々其の重要さを増大する。

所が其の重要さは未だ必ずしも一般人によつて充分に理解されてゐない、そうして其の無理解